「出題の意図」

選抜区分	２０２６年度　（選抜区分：一般選抜　前期日程） 経済学部（科目名：英語）

1. 出題の背景・求める能力

I.

脳科学と認知心理学の知見をもとに効率的な学習方法を解説した英文書籍から、自己規律に関する記述部分を出題した。設問の種類は英文和訳、英単語の選択、英文作成、文意を読み取る問題などで、総合的な英語力を問う。

II.

「幸福とは何か」について、心理学的な視点から解説した英文を出題した。設問の種類は英文和訳、構文や単語の知識が求められる問題などで、総合的な英語力を問う。

III.

日本経済新聞の記事を出題した。「Step up English」では、英文媒体「Nikkei Asia」の記事をもとに、ニュース英語が学べるように構成されている。設問は主に語群を並べ替える形での英文作成であり、知識と技能に加えて、「日本語文の文意に則して適切な英文を作成するためには、どの語句の並びが適切か？」といった判断力を問う。

IV.

出題箇所の各文のニュアンスや著者の主旨を理解して、英文で適切に表現できるかどうかを試す設問である。自分が記述した英文が、相手にどのように受け取られるかを思考する力も問われる。

2. 解説 (解法)

I.

問 1　「in addition to」と「more than」の英語表現を、それぞれ適切に訳しているかがポイントとなる。

問 2　本文のキーワードである self-discipline の意味が自己規律であることを読み取れていれば、正解につながる。

問 3　設問箇所の文が一つ前の文を受けていると理解できれば、直前にある「self-discipline」を選ぶことができる。

問 4　設問箇所の文が一つ前の文を受けていると理解できており、かつ、直前の文意を適切に捉えられているものを高く評価する。

問 5　使役動詞「make」の使い方や、句動詞「turn off」の目的語が代名詞の場合は目的語を turn と off の間に挟むことを知っていれば、語群を正しく並べ替えることができる。

問 6　設問箇所の直後に詳しい内容が書かれていることを理解した上で、全体の文意を通して「筆者が最も主張している要素は何か」を読み取れていれば、正解につながる。

問 7　文の構造を適切に把握できているかが評価のポイントとなる。「obstacles」の単語は、知識がなくても文意が理解できていれば類似した言葉を提示できる。

II.

問 1　接続詞の「So」や「if」、動名詞としての「cultivating」などを構文に沿って適切に訳している解答を高く評価する。

問 2　設問箇所の直後にある「or」が、正解の選択肢と only を同列のものとして示していると理解できれば、正解につながる。

問 3　「grateful for」という英語表現を知っているか、あるいは各選択肢で提示された前置詞の意味を理解していれば、正しい選択肢を選ぶことができる。

問 4　文型を正しく読み取り、提示された日本語訳文に適した形で表現できているものを高く評価する。

問 5　設問箇所の文が直前の文を受けていることを理解し、直前の文に登場している「perceived」を手掛りとすれば、正しい選択肢を選ぶことができる。

III.

問 1　日本語文を参照して、設問箇所で問われている記述内容を読み取り、その文意に沿って語句を正しく構成できているものを高く評価する。例えば、「how to eat natto」と並べられているもの、「across social media」と並べられているものは得点が高い。

問 2　設問箇所に適した品詞は何かを考え、各選択肢の品詞を確認した上で、各選択肢の単語の意味を正しく理解していれば、正解につながる。

問 3　日本語文を参照して、設問箇所で問われている記述内容を読み取り、その文意に沿って語句を正しく構成できているものを高く評価する。例えば、「there was〜」と並べられているもの、「a constant flow」と並べられているものは得点が高い。

問 4　日本語文を参照して、設問箇所で問われている記述内容を読み取り、その文意に沿って語句を正しく構成できているものを高く評価する。例えば、「have increased recently」と並べられているもの、「account for」と並べられているものは得点が高い。

IV.

文章全体をとおして、英文として適切である解答文は得点が高い。その上で、例えば、「〜ように見える」や「〜についてもそうだし、〜についてもそうだ」のような日本語を、文意を損なうことなく英語表現ができている解答を高く評価する。

3. 受験へのアドバイス

I・II については限られた時間で長文を読み、全体の文意をくみ取る必要がある。そのためにはまず、文法の知識をしっかり身に付けて、一文一文を理解することが重要だ。さらに、それぞれの文の関係性や論理の流れを意識し、文章の全体的な構造を理解する力を持つ必要がある。そのためには、長文問題にたくさん取り組んで慣れておくのが良い。

III・IV については、英文構成力が求められる。単語の使い方や文法が正しいかによって評価が大きく変わる。繰り返し練習して、英文構成力を高める必要があるだろう。和訳の問題を使っ

た例で言えば、解答文の日本語をもとに、問題のもととなった英文を自らの力で構成できるか、繰り返し取り組んでみるのが良い練習になる。